アメリカの大学への留学生2年連続減少
――『高等教育クロニクル』の記事より――

宮　田　　実（訳）

"Enrollment of Foreign Students Falls for a 2nd Year"
―― An Article from *The Chronicle of Higher Education* ――

Translated by MIYATA Minoru

留学生の減少

2004年アメリカの大学への留学生数は2年連続で減少した。特に，大学院では過去10年間で初めての減少となった。この調査結果は，国務省教育文化庁の支援を受けたアメリカ国際教育研究所が発行した『オープンドアーズ』の最新版に掲載された。この報告書は留学生の動向に関する年次報告書である。

この報告書によれば，2004-5年度は前年度に比べ留学生数が1.3％減少した。学部生が2.9％，大学院生が3.6％減少した。一方，学位取得を目指さない留学生の数は22.8％増加した。2003-4年度に1971年以来初めて留学生が2.4％減少したが，今回（2004-5年度）の減少率はそれに比べると低い。

しかし，規模は小さいが最近の2つの調査結果によれば，2005年秋の留学生数に関して明るい兆しが見える。アメリカ大学院審議会は2005年11月，主要な大学院に対して実施した一時調査の結果を発表した。それによると，2005年秋の新規留学生数は2001年以来初めて増加した。更に，980の大学に対して実施した調査によれば，回答した大学のうち40％が2005年秋に新規留学生が増加したと回答した。減少したと回答したのは26％で，ほとんど変化なしと回答したのは34％であった。

アメリカ国際教育研究所の年次報告書に対する大学関係者の反応は複雑であった。将来

平成18年2月28日　原稿受理
大阪産業大学　教養部

留学生が必ず増加に転じると見る者もいれば，悲観的な見方をする者もいた。同研究所の教育サービス担当副所長のペギー・ブルーメンソルさんは「2003-4年度の減少が長期的な減少の始まりとは思えません。」と述べている。一方，全米大学外国人学生アドバイザー協会副会長のビクター・ジョンソン氏はやや悲観的にこう述べる。「2001-2年度には583,000人の留学生がいましたが，今はかなり減りました。私が知る限りでは，過去50年で4年間にこんなに留学生が減ったことはありません。楽観視してはいけません。」

減少する留学生

アメリカの大学への留学生数は2004-5年度に再び減少した。

年度	留学生数	前年度比
1994-95	452,635	+0.6%
1995-96	453,787	+0.3%
1996-97	457,984	+0.9%
1997-98	481,280	+5.1%
1998-99	490,933	+2.0%
1999-2000	514,723	+4.8%
2000-1	547,867	+6.4%
2001-2	582,996	+6.4%
2002-3	586,323	+0.6%
2003-4	572,509	−2.4%
2004-5	565,039	−1.3%

（出所：アメリカ国際教育研究所）

留学生教育の専門家たちは，留学生数の減少の原因についてほぼ一致した見方をしている。大きな原因は3つある。即ち，アメリカの学生ビザの取得が難しくなっていること，他の英語圏の国々が留学生を以前にも増して精力的に勧誘していること，そして，アメリカへ学生を送り出している国々が自国で良質の教育を提供できるようになったことである。

UCLA理工学研究科長のビジェイ・K・ディア氏は，2001年9月11日の同時多発テロ以降アメリカへの入国が難しくなったことが志願者の減少につながっていると言う。ディア氏によれば彼が指導していた2人の中国人学生は帰省後アメリカに入国するのにほぼ9ヶ月かかった。「彼らは1学年の期間を無駄にしたのです。」とディア氏は言う。UCLAの留学生数は2003年から2004年にかけて2.4%減少した。大学の留学生担当の職員たちは数年前より留学生に関して共通した思いを持っている。それは，留学生たちがアメリカへ行くことが難しいと思っているということである。インディアナ大学ブルーミントン校の国際交流課のクリストファー・ヴィアーズ氏は「世界の多くの国々は，アメリカは留学生を歓

迎していないと考えています。」と述べている。彼の大学では2003年から2004年にかけて留学生が５％以上減少した。

アメリカへの留学生送り出し国上位20ヶ国（2004-5年度）

国名	留学生数	前年度比	国名	留学生数	前年度比
1．インド	80,466	＋0.9％	11．イギリス	8,236	－2.4％
2．中国	62,523	＋1.2	12．インドネシア	7,760	－12.6
3．韓国	53,358	＋1.7	13．コロンビア	7,334	－2.6
4．日本	42,215	＋3.4	14．ブラジル	7,244	－7.1
5．カナダ	28,140	＋4.2	15．香港	7,180	－2.4
6．台湾	25,914	－1.0	16．ケニア	6,728	－8.8
7．メキシコ	13,063	－2.0	17．フランス	6,555	－3.9
8．トルコ	12,474	＋9.4	18．ナイジェリア	6,335	＋3.2
9．ドイツ	8,640	－1.2	19．パキスタン	6,296	－14.0
10．タイ	8,637	－3.4	20．マレーシア	6,142	－5.3

（出所：アメリカ国際教育研究所）

留学生の多いアメリカの大学上位20校（2004-5年度）

大学名	留学生数	前年度比
1．南カリフォルニア大学	6,846	＋3.0％
2．イリノイ大学アーバーナシャンペイン校	5,560	＋16.6
3．テキサス大学オースティン校	5,333	＋10.5
4．コロンビア大学	5,278	－1.6
5．ニューヨーク大学	5,140	＋1.4
6．パーデュー大学メインキャンパス	4,921	－3.4
7．ミシガン大学アナーバー校	4,632	＋1.1
8．ボストン大学	4,541	＋0.5
9．カリフォルニア大学ロサンゼルス校	4,217	－2.4
10．オハイオ州立大学メインキャンパス	4,140	－2.9
11．ニューヨーク州立大学バッファロー校	3,965	＋8.2
12．ウィスコンシン大学マディソン校	3,941	＋14.7
13．テキサスA&M大学カレッジステイション校	3,721	－2.5
14．ペンシルバニア大学	3,712	＋4.4
15．メリーランド大学カレッジパーク校	3,646	－2.1
16．ハーバード大学	3,546	＋4.2
17．インディアナ大学ブルーミントン校	3,525	－5.1
18．フロリダ大学	3,492	＋10.6
19．ヒューストン大学	3,326	－1.2
20．ミシガン州立大学	3,315	＋1.2

（出所：アメリカ国際教育研究所）

留学生大歓迎

アメリカ教育文化担当国務次官補のダイアナ・H・パウエルさんによれば，国務省や世界中のアメリカ大使館が実施したビザ発給の効率化の努力や，各国の親，学生，教師に対して「アメリカは留学生を歓迎する」というメッセージを伝えたことがアメリカへの留学生の減少率を下げるのに効果的だった。パウエルさんは「来年は必ず留学生数が増加に転じると思います」と言う。

アメリカ大学院審議会の調査によれば，2005年新規入学者数は増加したが，入学手続きした学生の割合は2004年の43％から38％に減少した。即ち，入学許可を得た後，アメリカの大学を選択した学生の数が減ったことになる。同審議会会長のデブラ・W・スチュアートさんは，アメリカの大学の入学許可は以前ほど魅力的ではなくなってきており，優秀な学生の一部はアメリカ以外の国へ行っていると言う。スチュアートさんは更にこう述べる。「もし入学手続き率が下がればやがてアメリカの大学の競争力が下がります。」

2001年9月11日以降アメリカがビザ発給を制限していた間，他の国々は以前にも増して留学生獲得のために努力していた。中には，その国が必要とする分野で博士号を取得した留学生には自動的にグリーンカード（永住許可証）に相当するものを与える国もある。特にオーストラリアが積極的に留学生を受け入れていることはよく知られている。オーストラリア政府の発表によると，2003年から2004年にかけてオーストラリアの大学に留学した中国人とインド人の合計数は13,056人増えて，47,911人になった。同じ時期，両国からアメリカへの留学生数は1,488人増加しただけで，合計142,989人であった。

アメリカ国際研究所所長のアラン・E・グッドマン氏は他の国々がアメリカにとって長期的に脅威になるとは考えていない。彼は次のように述べる。「アメリカには約4,000の大学がある。オーストラリアには35校，カナダには85校，イギリスには約260校しかない。アメリカ以外の英語圏の国々の大学には留学生の収容能力に限界があると思います。」

アメリカでは物理学，化学，工学の分野で留学生が多く在籍し，重要な存在となっている。7つの高等教育協会の調査によると，回答した大学の半数が留学生数が減少しないよう特別な措置をとっている。UCLAのディア氏は，留学生は難解な問題に対して新しい観点を示してくれるという点で重要な存在だと指摘する。また，アメリカが上記の分野で競争力を維持するために留学生が来やすいようにするべきだと言う。彼は更にこう付け加える。「アメリカは今や危機的な状況にある。この状況を是正しなければより速いペースでますます悪化するでしょう。」

留学生はアメリカを豊かにしてくれている。全米外国人学生アドバイザー協会によれば，留学生は2004－５年度，130億ドル以上アメリカの経済に寄与したのである。

見えない将来

アメリカの大学関係者は２大留学生送り出し国である中国とインドに注目している。同時に，それ以外の国々，特に，2001年の同時多発テロ以降留学生が減少した，イスラム教徒が多い諸国にも注意を払っている。例えば，インドネシアの場合は2002年から2004年にかけてアメリカへの留学生数は10,432人から25.6％減少し，7,760人になった。サウジアラビアからの留学生は2004年に13.8％減少し，中東諸国からの留学生は全体で1.9％減少した。

アメリカへの留学生の最大送り出し国であるインドからの留学生は2003年まで数年間かなりのペースで増加してきたが，2004年は0.9％増にとどまった。しかし，大学院生については約８％減少した。（学部学生と学位を目指さない学生の数は増加した。）インドの大学関係者は，アメリカへの大学院留学生の減少の理由として，好調なインド経済とアメリカ以外の英語圏の国々の積極的な留学生勧誘を挙げる。

第２位の送り出し国である中国からの留学生数は2002年から2003年にかけて4.6％減少したが，2003年から2004年にかけて1.2％増加した。インドと同様，大学院生数は約３％減少した。

英語圏諸国の留学生獲得競争

オーストラリアやイギリスでは留学生数は増加し続けているが，アメリカとカナダでは減少した。以下の数字は最新の調査結果である。

		2003	2004	増減率
アメリカ	中国人学生	61,765	62,523	＋1.2％
	インド人学生	79,736	80,466	＋0.9
	留学生総数	572,509	565,039	－1.3
オーストラリア	中国人学生	22,548	30,041	＋33.2
	インド人学生	12,307	17,870	＋45.2
	留学生総数	136,125	151,798	＋11.5
カナダ	中国人学生	9,820	6,930	－29.4
	インド人学生	2,309	1,496	－35.2
	留学生総数	105,598	不明	不明

		2002	2003	増減率
イギリス	中国人学生	35,155	47,740	+35.8%
	インド人学生	12,465	14,625	+17.3
	留学生総数	275,265	300,050	+9.0

注：（1）カナダの2004年の数字はビザ発給数であり，実際の留学生数は不明である。
（2）カナダは職業訓練校の学生や短期のESL（第二言語としての英語）学習者は含めない。他の国々はすべて大学におけるESL学習者を含める。
（出所：カナダ市民権・移民省，オーストラリア国際教育，イギリス高等教育統計局，アメリカ国際教育研究所，高等教育クロニクルの記事）

特に注目すべきは学位を目指さない留学生数が22.8%も増加したということである。このカテゴリーに属するのは英語研修プログラムを受ける者，実地研修プログラムを受ける者，学習証明書取得プログラムを受ける者である。アメリカ国際教育研究所は，この増加の原因を，大学に正規に入学する前に技術や英語力を伸ばす学生が増えたことと大学からの報告が正確になったからだと見る。イリノイ大学アーバーナシャンペイン校は後者の例である。同校では2003年から2004年にかけて留学生数が16.6%増加した。国際交流課のジュリー・ミーサ課長によれば，大学は留学生勧誘に力を入れているが，16.6%という数字は正確ではない。なぜなら大学は以前は実地研修プログラムを受ける学生数を報告していなかったから。もしこの学生数を含めないなら留学生の増加率は4.1%にしかならない。

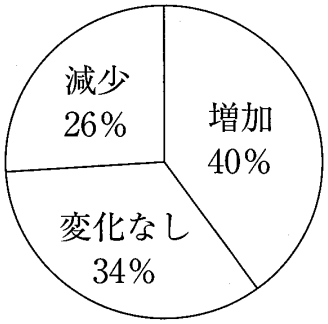
アメリカの大学関係者は留学生数の減少に頭を痛めているが，アメリカ国内外で改善の兆しを見る人もいる。アメリカの諸大学の国際交流課によれば留学生のビザ取得の問題は過去数年間で少なくなってきている。北京で留学に関するアドバイスをしているチーヴァスト教育インターナショナルのワン・ジン氏によれば，中国ではアメリカ留学を希望する学生が増加している。彼はこう述べる。「ビザの取得が容易になったので，多くの中国人学生が再びアメリカの大学への志願を考えているのは明らかです。」

アメリカ大学院審議会のスチュアートさんは，アメリカ政府のビザ発給が2005年に大いに改善されたと言う。彼女は更にこう述べる。「だからといってわれわれの国際化政策が他の国々と同じように留学生に対して暖かく，友好的だというわけではありません。私たちは世界中から最も優秀な学生を惹きつけ続けるための方策を見つけなければなりません。それがアメリカの知性を守る上でとても重要なことなのです。」

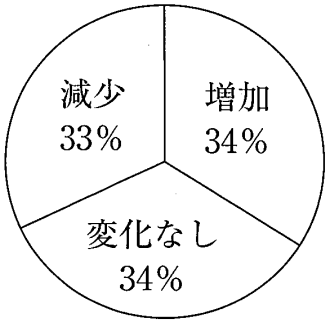
アメリカへの留学生数：2005年秋の統計数字

2004年から留学生数がどう変化したかを調べるために，2005年10月に980の大学で実施した調査結果は以下のとおりである。

新規留学生の増減



留学生全体の増減



注：四捨五入しているため，合計が100％以上になる場合がある。

減少したと回答した大学が挙げた，減少の要因

ビザ申請に時間がかかることや遅延・拒否の心配	34.5％
高額な学費	17.9
他国の大学への進学	12.8
その他の理由	12.7
自国の経済問題	11.0
自国の大学への進学	5.9
学生ビザ取得時に必要な費用の問題	5.2

（出所：アメリカ国際教育研究所・アメリカコミュニティカレッジ協会共同，アメリカ教育協議会，アメリカ大学協会，アメリカ大学院審議会，全米大学外国人学生アドバイザー協会，全米州立大学・土地付与大学協会）

増加するアメリカ人留学生

アメリカ国際教育研究所の年次報告書『オープンドアーズ』によれば，留学するアメリカ人大学生の数は依然増加している。そしてその行き先は徐々にヨーロッパへの割合が減りつつある。最新（2003－４年度）のデータによると，留学するアメリカ人学生は前年度より9.6％増加し，191,321人であった。行き先で最も多いのがイギリスで，今でもヨーロッパ諸国への留学が多いが，その割合は過去10年間で67％から61％に下がった。対照的にアジアやラテンアメリカの人気が年々高まっている。報告書に伴う報道機関の発表の中でアメリカ国際教育研究所は，東アジアで2003年にSARSが流行したとき，アメリカの多くの大学はその年の春と夏の留学プログラムを中止したが，今はその影響は無いと伝えている。例えば，中国へ留学するアメリカ人の数は，2001年から2002年にかけて36％減少したが，2003-4年度は90％増加し，4,737人だった。

短期プログラムが引き続き人気がある。１年間留学するアメリカ人は全体の６％しかな

く，38％は1学期間の留学である。夏期研修や8週間以内の留学は全体の46％を占める。

アメリカ人学生の留学先上位15ヶ国（2003-4年度）

	学生数	前年度比
1．イギリス	32,237	＋1.7％
2．イタリア	21,922	＋15.8
3．スペイン	20,080	＋6.4
4．フランス	13,718	＋4.9
5．オーストラリア	11,418	＋6.8
6．メキシコ	9,293	＋5.9
7．ドイツ	5,985	＋7.1
8．アイルランド	5,198	＋6.3
9．中国	4,737	＋90.0
10．コスタリカ	4,510	＋5.0
11．日本	3,707	＋7.2
12．オーストリア	2,444	－12.7
13．ニュージーランド	2,369	＋23.6
14．キューバ	2,148	＋45.7
15．チリ	2,135	＋9.8

（出所：アメリカ国際教育研究所）

（2005年11月18日号）

（Copyright 2005, *The Chronicle of Higher Education.* Translated and reprinted with permission. The complete English-language version of this article is available on *The Chronicle of Higher Education* Website at: http://chronicle.com）

訳者あとがき

本稿は，アメリカで発行されている高等教育に関する週刊専門新聞『高等教育クロニクル』に掲載された記事の翻訳である。

今回取り上げたのは，世界最大の留学生受入国アメリカの大学の留学生数の最新の動向に関する記事である。筆者はユージン・マッコーミック氏とベス・マックマートリーさんである。過去30年以上増え続けていた留学生数が減少に転じたことはアメリカの高等教育関係者にとって一大事であろう。日本では留学生が2003年に10万人を超え，2005年5月1日現在121,812人である。留学生数では全国で第4位の大阪産業大学の一員として今後の日本への留学生の動向も気になるところである。